校長あいさつ　３月１１日(金)　避難訓練（東日本大震災）

自分の命は自分で守る　みんなの命はみんなで守る

～　「釜石の軌跡」共助のリレー　～

みなさん、こんにちは。
突然ですが、みなさんは「釜石の奇跡」という言葉を聞いたことがありますか？
それは、今から１１年前の今日、３月１１日に起こりました。

１４：４６　・巨大地震発生。
１４：５２　・防災無線でサイレンとともに６メートルの津波警報
・ある先生が、山への避難を提案するが、動けずにいた。
・迎えに来た保護者からも進言されたが、動かなかった。
・うのすまい小学校の児童や先生たちは、校舎の３階に避難しようとしたが、高台へ逃げる中学生を見て、すぐに校舎を駆け下り、中学生に続いた。
１５：１４　・１０メートルの大津波警報を受信
・子供から「山へ逃げよう」との提案
１５：２４　・校庭から小高い橋の付近を目指して移動開始
・道は狭く、移動途中で行き止まり。避難先を変更
・近くを流れる川から波の壁が来た
・先頭の児童があわてて引き返し、山へ向かった。
・高台に着いたとき、背後で巨大な津波が、学校を、そして町をのみこんでいった。

最大震度７、マグニチュード 9.0 という国内観測史上最大の大地震でした。人口約４万人の釜石市内で、死者は 1,000 人を超え、東北地方を中心に 18,425 名の死者・行方不明者が出ましたが、釜石市の小中学生はその 99.8%(約 3,000 人)が無事だったのです。
そして、地区の釜石東中学校の生徒達が小学生の手を引いて避難したことが、「奇跡」として、報道されました。
しかし、子供たちの命を救おうと行動した人は、たくさんいたのです。
サイレンや言葉で避難を呼びかけ続けた市役所の方々。
水門を閉めにいってくれた消防団の人。
「点呼はいいから、とにかく走れ！」「高台まで、急げ！」
避難誘導してくれた先生や近所の人たち。
そうです。「釜石の奇跡」は、みんなの命をみんなで守ることができたことをさすのです。
その軌跡は、普段の訓練で緊張感をもってやっているからこそ、いざという時の対応力が身に付き、これまでなかった災害を乗り越えさせたのです。
みなさんも、今日の訓練、緊張感をもって望めましたか？
避難訓練は「命を守る訓練」です。全員が、落ち着いて、安全に動くことがとっても大事です。一人の自分勝手な行動が、多くの人の危険につながってしまいます。毎回、本当の災害の場面だと思って真剣に取り組みましょう。
この後は、その東日本大震災で亡くなった方のご冥福をお祈りし、１分間の黙とうを捧げます。